

# 令和元年度「中学校学力向上対策3つの提言」に係る取組状況等調査結果

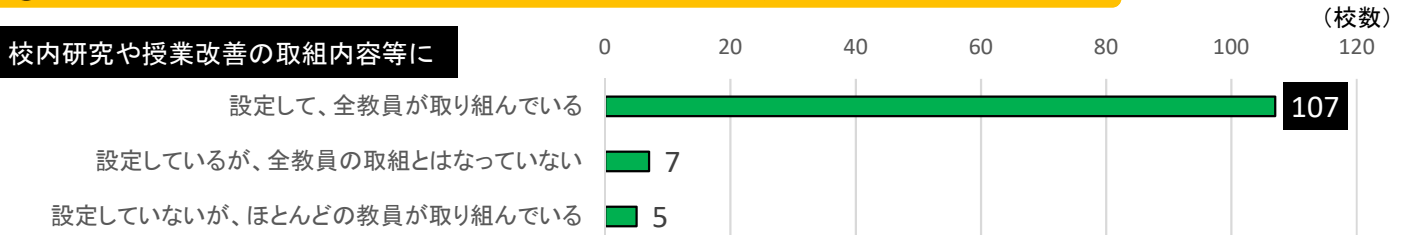
2019年9月大分県教育委員会

## 調査の概要

- 調査目的 「中学校学力向上対策3つの提言」の実施状況を把握し今後の施策に生かす。
- 調査対象 県内市町村立中学校・義務教育学校後期課程：119校
- 調査期間 令和元年7月5日～8月5日

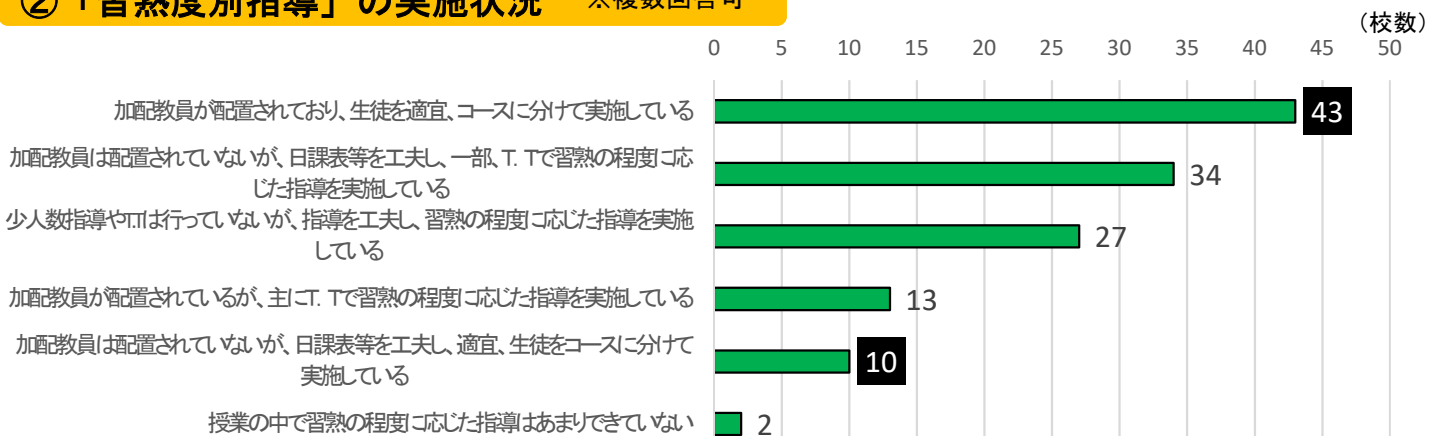
## (提言1) 「学校の組織的な授業改善による『新大分スタンダード』の徹底」

### ①生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業



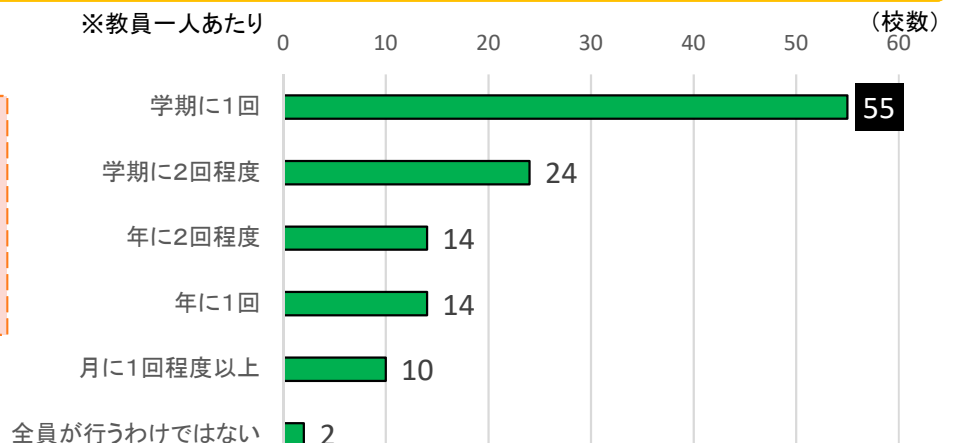
■ 「設定して、全教員が取り組んでいる」と回答した学校は、107校（89.9%）であり、昨年度とほぼ同じ状況にある。 【参考】 H30 : 90.3%

### ②「習熟度別指導」の実施状況 ※複数回答可



■ 「（加配教員の有無に関わらず）生徒をコースに分けて実施している」と回答した学校は、53校（44.5%）であり、昨年度と比べると少し減少している。 【参考】 H30 : 46%

### ③互見授業や授業研究の実施予定 ※「全ての教科に共通した授業改善の取組内容」について

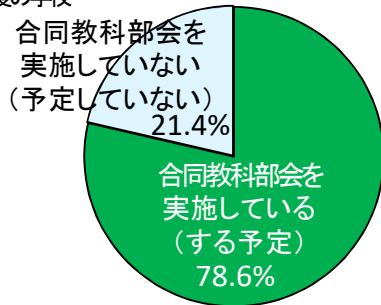


■ 教員一人あたりの実施回数の割合は、「学期に1回」が55校（46.2%）と一番多く、昨年度とほぼ同じ状況である。 【参考】 H30 : 45.2%

## (提言2) 「学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築」

### ① 近隣校との合同教科部会の実施

※教科担任が1人～2人程度の学校

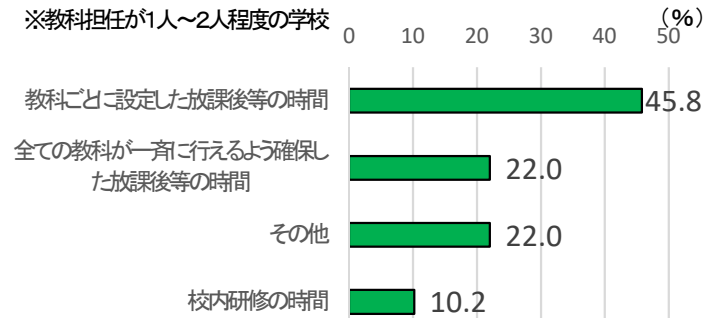


■ 「教科担任が1人～2人の学校」の70校のうち、近隣校との合同教科部会を実施(予定有り)している学校は、55校(78.6%)であり、昨年度より少し増加している。

【参考】H30 : 74%

### ② 合同教科部会を実施する時間

※教科担任が1人～2人程度の学校



■ 「その他」と回答した学校(抜粋)

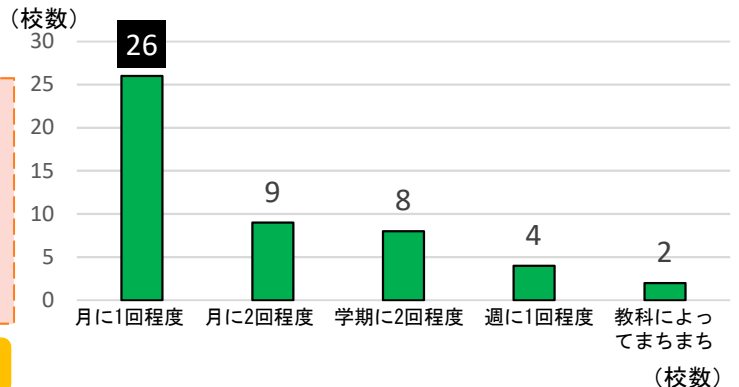
- ・授業公開に合わせて参観授業・事後研修会を実施。
- ・教科ごとに日時を設定して、参観授業・教科部会を実施。
- ・公務用共有ネットを利用して情報共有を図る。

### ③ 教科部会の実施頻度

※複数の教科担任がいる学校

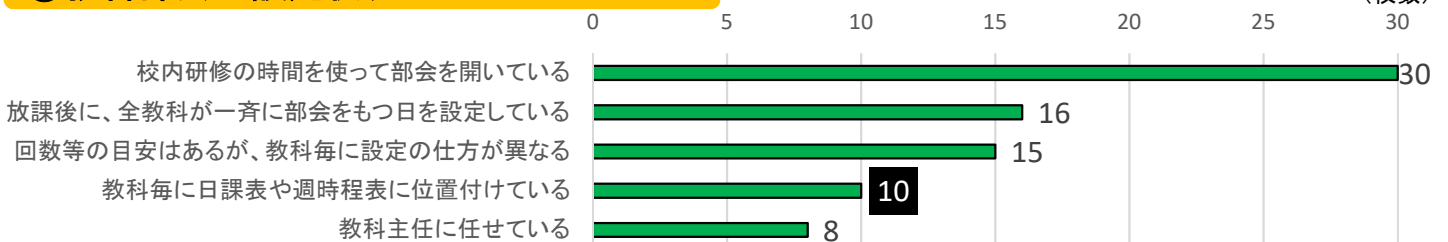
■ 「複数の教科担任がいる学校」49校のうち、「月に1回程度」教科部会を実施する学校は、26校(53.1%)で一番多い。

■ 「原則、月1回の実施」だが、教科によってそれ以上実施している学校もある。



### ④ 教科部会の設定状況

※複数回答可

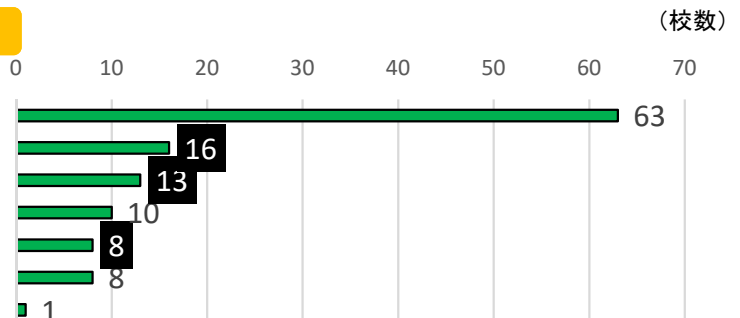


■ 教科部会を、「教科毎に日課表や週時程表に位置付けている」学校は10校あり、昨年度より少し減少している。

【参考】H30 : 12校

### ⑤ 「タテ持ち」の実施状況

- 学校規模の関係で、必然的(ほとんどの教科が「タテ持ち」になっている)
- 意図的(ほとんどの教科で「タテ持ち」をしている)
- 「ヨコ持ち」を基本、意図的に一部の教科、学年で「タテ持ち」をしている
- 「ヨコ持ち」を基本、学級数の関係で一部の教科が「タテ持ち」になっている
- 「タテ持ち」を基本、校務分掌等を考慮し、一部の教科で「ヨコ持ち」をしている
- 「ヨコ持ち」が可能な教科が「ヨコ持ち」、学校規模の関係で、多くの教科が「タテ持ち」になっている
- その他



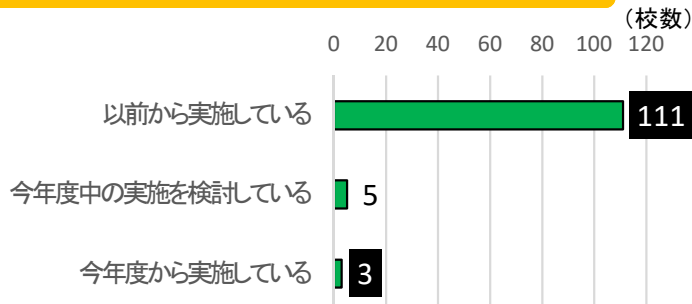
■ 84%の学校で「タテ持ち」が行われている。

■ 意図的に「タテ持ち」を実施している学校は、37校(31.1%)であり、昨年度より増加している。

【参考】H30 : 25.8%

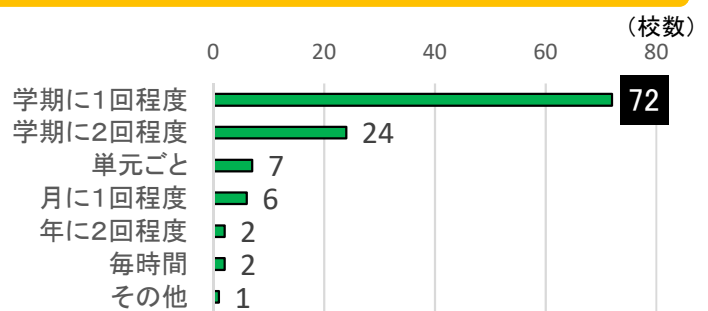
## （提言3）「生徒と共に創る授業の推進」

### ①生徒による「授業評価」の実施



■「授業評価を実施している」学校は、114校（95.8%）あり、ほぼ100%の学校実施予定である。

### ②生徒による「授業評価」の実施頻度



■「学期に1回程度」実施している学校が、72校（63.2%）で一番多い。【参考】H30：63.6%

### ③授業改善に生かされているか



■生徒による「授業評価」が、授業改善に「（どちらかといえば）生かされている」と回答した学校は、111校（97.4%）であり、ほぼ同じ状況である。【参考】H30：97.5%

### ④どのような授業改善につながったか

- 学校からの回答（抜粋）
- ・ 生徒による授業評価後、教師が各自授業を振り返り、アンケートに記入した。2回目の授業評価では、板書の改善について低かった教科の数値が上昇した。
  - ・ 「わからない・苦手」という意識をもつ生徒の割合などから、教科部会で分析をし、授業の進め方や見取りの仕方の工夫改善につながっている。
  - ・ 評価の高い授業を見学したりするなど、授業スタイルを交流する雰囲気生まれた。
  - ・ 研究主任が集約・分析し、学校評価4点セットや授業改善5点セットに反映させている。また、来学期の取組内容を全職員で共通理解した上で、最初の授業の際各教科担当が取組内容について生徒の前で話をするようにしている。

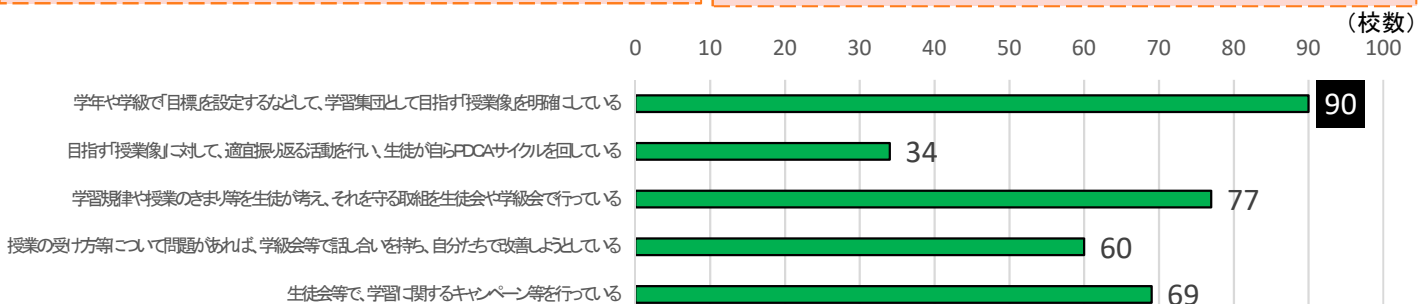
### ⑤生徒の学習意欲の向上



■「授業評価」を生かした授業改善により、「生徒の学習意欲が（どちらかといえば）向上した」と回答した学校は、109校（99.1%）である。【参考】H30：99.2%

### ⑥目指す「授業像」の追求 ※複数回答可

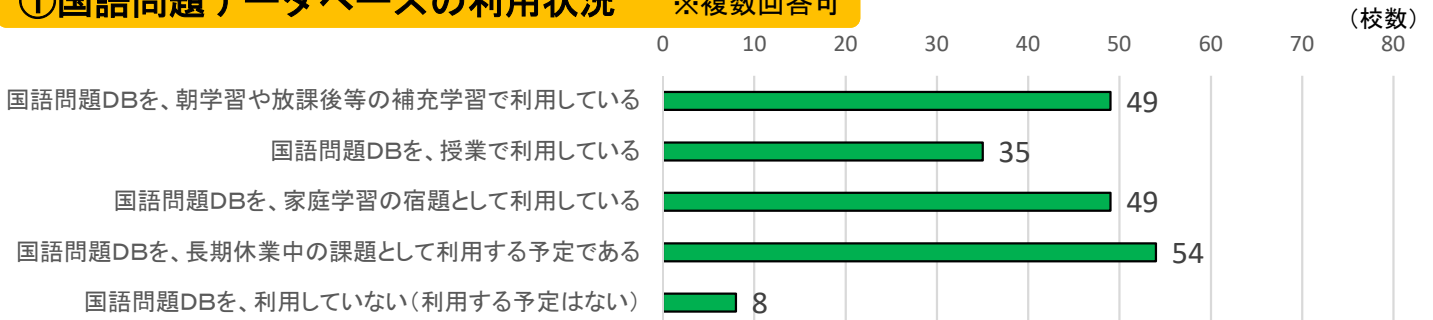
■「学年や学級で「目標」を設定するなどして、学習集団として目指す「授業像」を明確にしている」と回答した学校は、90校であり、昨年度より増加している。【参考】H30：59校



# 問題データベースの利用状況について

## ①国語問題データベースの利用状況

※複数回答可



## ②社会問題データベースの利用状況

※複数回答可



## ③数学問題データベースの利用状況

※複数回答可



## ④理科問題データベースの利用状況

※複数回答可



## ⑤英語問題データベースの利用状況

※複数回答可

